

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「はなの みち」 教材名「はなの みち」

2 単元の目標

語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（〔知識及び技能〕(1)ク）

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

出来事の前後を、人物の行動と場所の様子から読み取る学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）	①出来事の前後を、人物の行動と場所の様子から読み取る学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

出来事の前後を、人物の行動と場所の様子から読み取る。この教材では、場面の順と人物の行動を対応させたメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師は教科書を手元で示し、だれが何をしたのかを短い文で確認する。挿絵から想像したことと本文にあることを別に話す。想定する難しさは、挿絵だけで人物の台詞や出来事を作り足す。評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の順と人物の行動を対応させたメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見直しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○場面の順に人物の行動を確認、道の様子が変わる前後の本文と絵を対応させる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～5 （本時）	○場面の順に人物の行動を確認、道の様子が変わる前後の本文と絵を対応させる。出来事の順が伝わるように音読し、聞き手が捉えた内容を返す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	6	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確認したことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導（4／6）

（１）本時の目標

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「道の様子が変わった前と後では、何が起きていますか」 【めあて】出来事の前後を、人物の行動と場所の様子から読み取る。 〈予想される児童の反応〉 ・前の場面でしたことが後の場面に関係している。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「道の様子が変わった前と後では、何が起きていますか」 場面の順に人物の行動を確認、道の様子が変わる前後の本文と絵を対応させる。出来事の順が伝わるように音読し、聞き手が捉えた内容を返す。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・前の場面でしたことが後の場面に関係している。 ・絵だけでなく書かれた言葉でも確かめたい。	教師は教科書を手元で示し、だれが何をしたのかを短い文で確認する。挿絵から想像したことと本文にあることを別に話す。 想定する難しさ：挿絵だけで人物の台詞や出来事を作り足す。 評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の順と人物の行動を対応させたメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 場面の順と人物の行動を対応させたメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・絵だけでなく書かれた言葉でも確かめたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「道の様子が変わった前と後では、何が起きていますか」。中央は、場面の順と人物の行動を対応させたメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

